

## 演題 細胞の声を聴こう

藤田 守 (ふじた まもる)  
久留米大学医学部 客員教授

### 講演要旨

電子顕微鏡との出逢いは 1973 年に九州大学医学部解剖学教室でした。それ以来、香川医科大学 (現、香川大学医学部)、ハーバード大学医学部、中村学園大学・大学院さらに久留米大学医学部で電子顕微鏡を用いて、細胞の超微形態学的研究を行ってきました。本講演では、これまでの研究を踏まえて、細胞の微細構造、特に膜系構造の多様性についてお話しします。

電子顕微鏡は 20 世紀前半に発明されて以来、年々改良され、同時に試料作製技術も進歩しました。今や医学・生物系の研究において、細胞内の微細構造を観察する装置としては、最も優れていると思います。

ヒトを含むあらゆる生物は細胞からできています。細胞は細胞膜で囲まれ、内部は核と細胞質に分けられます。核には遺伝子が存在し、細胞質には種々の細胞小器官や細胞の基質などがひしめきあっています。それらは生命活動に重要な役割を演じています。また、細胞の膜系については動的な膜と静的な膜に大別できます。試料作製技術を駆使し、電子顕微鏡を用いて生命の舞台装置やカラクリを多方面から隅々まで覗き、極微の世界からの声に真摯に耳を傾けてみましょう。